



校長室だより

黒部市立村椿小学校

文責：校長 寺島紀子

令和6年11月8日

第25号

先週後半はハロウィーンを楽しんでいる学級がいくつかありました。そのうち4年生は、理科室を使ってのお化け屋敷を企画し、業間の時間には他学年の子にも参加してもらっていました。真っ暗な理科室からは、時折ガタガタと不気味な音と悲鳴や歓声が聞こえ、それはそれは盛り上がっている様子。うきうきのオバケさんは校長室前にもやってきました。「楽しそうだねえ」と温かい心でいっしょに写真撮影に応じてくださったお客様、ありがとうございました。

「楽しいことがしたい」と、自分たちで考えて計画し、準備してきたからこそその達成感を、子供たちはたっぷり味わっていたようです。

さて、2日（土）のJAくろべ農業祭では5年生の代表が米作り体験の発表に臨みました。9校中1番目の発表で緊張したかと思いますが、農業に携わっていた家族のエピソード等も交えながら学校での田植え・稲刈り体験を丁寧に話していて、とても立派でした。会館内では児童作品も展示されていました。子供たちの活躍が感じられて楽しい先週末の一コマでした。

想像力はどこから…？ 読書の秋に思うこと その1

10月27日は「文字・活字文化の日（以前は「読書の日」とも）」で、読書週間の初日です。本校では11月を「校内読書月間」とし、じっくりと本に親しみ読書に浸る期間としています。

さて、読書の効用として「知識を広げる」等のほか「想像力が育つ」とも言われますが、そもそも「想像力」とはいったいどのようなものなのでしょうか。

★「想像力は記憶である」

イタリアの哲学者ヴィーゴは「想像力とは、拡大され組み立てられた記憶以外の何物でもない」と言っています。このことについて、『声に出して読みたい日本語』著者の齋藤孝さんが次のように詳しく解説しています（齋藤孝 著『定義』筑摩書房）。

「昼間の記憶が増幅されて夜、夢に出てくることはよくあるかと思えます。想像力は昼間見る夢のようなものだと考えると、想像力と記憶は対立するものではなく、密接に結びついているものだと分かります。だとすると、想像力を豊かにするにはいろいろなことを記憶しておいた方が有利です。文学作品を読み、芸術にふれ、知識を増やしていけば、想像力が広がります。」

ちなみにヴィーゴは貧しい生まれの中、ほぼ独学であらゆる分野の書物を読んで学び、哲学者としての業績を残したのだとか。「記憶に基づく想像力」の言葉に説得力が増します。

★言葉があるから豊かに想像できる

一方、私が自分の経験から思うのは「言葉を駆使して考えてこそ想像できる」ということです。漠然としたイメージだけが頭の中をぐるぐる駆け回って豊かに想像する、というのは困難な気がします。そもそも「言葉」は思考だけでなく記憶そのものにも大きな関係があると言われます。言葉をつかってこそ、記憶が確かなものになっていくということです。そう考えると、想像力は言葉をつかう人間にだけ与えられた力なのでしょう。

★想像力は希望と創造の源です

自分の言葉や知識を増やす近道はやはり読書です。そして本の世界で「心の疑似体験」を重ねることが豊かな想像力につながります。想像力はつらい状況を乗り越え生き抜く希望を生み出し、新たな創造の力にもつながると私は思います。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想などをお知らせください。お待ちしております！

校長室だよりへの感想

切り取り

できればお名前 or 児童名（ ）



一字一字真剣に読みます



村椿司書による絵本の読み聞かせ

10月の短歌「家族のこと・家のこと」を紹介します

今回は3、4年生の投歌が多くありました。家族のことを歌に詠むのは「うれしはずかし」ですね。

- お茶わんをかたづけるときほめ言葉あびれてうれしい毎日やるか (3年 K・Sさん)
- 愛犬のヤマトのねすがたかわいいよ今日はどんなねぞうをしている? (4年 K・Eさん)
- 妹よシャインマスカットつまみ食い ずっと待ってた秋の楽しみ (3年 T・Aさん)
- ひいばあちゃん長生きしたねがんばった生まれ変わったらまた会いたいな (4年 T・Kさん)
- スーパーで夕飯のメニュー悩んだら思い返すは息子の好物 (I・T先生)
- じいちゃんのかたもみしたらおこづかい 十分したら千円ゲット (3年 F・Dさん)

毎月の子供たちの短歌は村椿公民館にも掲示をさせていただいています。お立ち寄りの際はご覧ください。感想カードも用意していますので、よろしければご協力ください。

<先月の公民館からの「感想カード」より>※9月の「運動会」の短歌への感想を原文のまま紹介します。

- ・とても元気な姿が目に見えます。がんばりましたね!
- ・若い小学生の感想がにじみ出ていてすばらしいと思いました。 70歳女性より
- ・運動会の様子がよく出ています。本当に上手ですね。 女性より
- ・運動会のわくわく感、楽しい気持ちが伝わってきました。その経験はステキな思い出になることでしょう。 村椿地区の70歳より

感想をありがとうございます!



シリーズ「教室におじゃまします」11/5(火)1年生活科の巻

この日は、学校の敷地内での「あきみつけ」でした。見つけた物ですてきな作品を作るのだそうですよ。各自が袋を手に、済美園の周辺を探検開始!です。

地面にどんぐりがたくさん落ちている所がありました。子供たちが見上げると、つやつやとした緑の葉っぱが…。どんぐり(種類はよく分かりませんが、すみません)は常緑樹なのですね。

落ちていないどんぐり、まだ木についているどんぐりと緑の葉っぱも少しずつゲットします。さらによく見ると、木の根元の暗がりには、「あ、キノコが生えているよ!」「でも毒キノコかもよ。取らないでおこう…。」子供たちの会話は聞いているだけで楽しいですね。

別の所では黄色や赤に色づいた葉っぱが落ちています。色や形がきれいなものをよく選んで袋に入れます。一方、葉っぱの間から赤い実を発見して摘み取る子もいました。

こうして見ると、さほど広くはない敷地内にもさまざまな樹木が植えられており、「子供たちには自然に親しみ、

情緒豊かに育ててほしい」と願った先人の思いを想像できます。

小さな子供たちも、いつかそのありがたさを感じる日がくることでしょう。身近な所にたくさんの秋がありました。



<おまけのひとりごと>またいつもの個人的思い出話ですが…。小学生の頃の「本」体験と言えば、毎月親が本屋で買ってきてくれる『小学〇年生』と、これも毎月、小学校の理科室で販売があった(!)学研の『〇年の学習』(『〇年の科学』もありましたが、私は『学習』派でした)。たまに父親が市の図書館に連れていってくれることもありました。しかし何と言っても日常的には学校の図書室が一番でした。低学年の頃は昔話や物語、伝記等々…。借りた本を家に持って帰ると、時々祖母が、読んで聞かせてくれと言うので、自分なりに工夫して朗読をしていた記憶があります。想像力豊かというか、当時からその気になりやすい子供だったのでしょう。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想などをお知らせください。お待ちしております!

校長室だよりへの感想

切り取り

できればお名前 or 児童名()